

南三陸町自然環境活用センター 初夏の特別講座

自然や水中の生物と正面から向き合い、研究と教育普及活動に長年取り組んでこられた林公義先生に、これまでの経験と最新の情報を交えながら、自然観察と研究の醍醐味や成果についてお話をいただきます！
みなさま、ぜひご参加ください！

戸倉公民館※
多目的ホールにて
参加無料

※ 南三陸町戸倉公民館
〒986-0781 宮城県本吉郡南三陸町戸倉沖田69-2

2025年

6.16 (月)

18:30- 20:00
(18:00 開場)

フィッシュ・ウォッチングと 魚類研究の融合 —自然観察の延長にあるもの—

元横須賀市自然・人文博物館館長

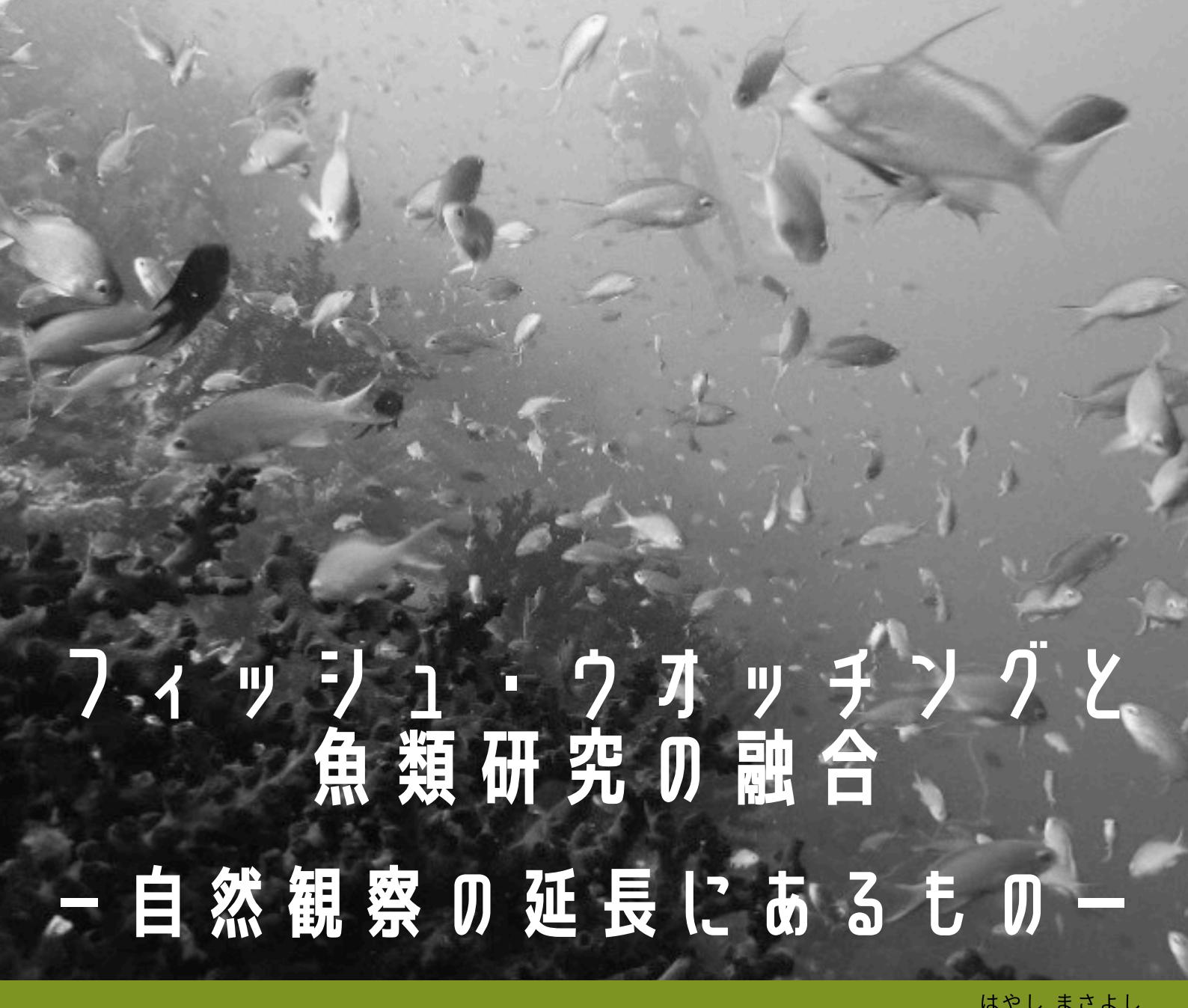
はやし まさよし

講師：林 公義



主催

| 南三陸町自然環境活用センター Tel.0226-25-9703
(南三陸ネイチャーセンター)



フィッシュ・ウォッチングと 魚類研究の融合

-自然観察の延長にあるもの-

元横須賀市自然・人文博物館館長

はやし まさよし

林 公義

<プロフィール>

1947年、神奈川県生まれ。日本大学農獸医学部水産学科卒業。専門は魚類の分類や生態。横須賀市自然・人文博物館館長（学芸活動は42年間），日本大学・東海大学・北里大学講師を経て、現在は生物学研究所に勤務。博物館学芸員時代に八重山諸島や奄美諸島において淡水魚類やサンゴ礁魚類相調査（ハゼ・テンジクダイ類）を続け、標本収集や研究を行った。「子ども科学電話相談」（NHKR1）や日本安全潜水協会（JCUE）などで、フィッシュ・ウォッチングの普及活動に力を注ぐ。日本魚類学会会員（学会史委員会委員長）・東京都動物園協会（評議員）。

<内 容>

生まれ育った環境もあって、幼年時代から海や水辺の生きものに強い関心を持っていた少年は、採集と飼育や標本作りに明け暮れています。小学4年の時に初めて体験した「自然観察会」は、これまでの自分が楽しんできた「自然（生命・種・環境）の見方」とは全く異なる世界に接し、強い衝撃を受けます。その後の学校生活・クラブ活動・NPO活動を通して、それまでの自然観察会への参加者側からいつの間にか主催者側の立場となり、更に自然観察の「意義・手法・技術」などが、魚類分類学や生態・行動学など自分の仕事としての研究目標に対して極めて重要なツールとして活用できること、また様々な自然観察での体験は生涯学習教育のツールとしての効果をもたらすこともわかりました。自然観察の意義や手法から始まる研究活動へのアプローチの例を挙げて（フィッシュ・ウォッチング）その効果を紹介します。また近年、魚類学会年会で発表された「南三陸町志津川湾産のクダリボウズギス類の生態」に関する情報は、長年テンジクダイ科魚類をテーマに調査・研究してきた私の頭に、新鮮で且つ雷鳴のような刺激をあたえました。幸いにも南三陸ネイチャーセンターの協力を得て、この稀種研究に参画する機会をもつことができ、クダリボウズギス類は、分類学・生態学・行動学そして生物地理学的にも未解決な要素を多く持っていることがわかりました。今年は「自然観察的手法」を駆使してその謎の一部を解明することを試みる研究が始まります。今回はこれまでの成果の一部を紹介します。